

江東湾岸エリアにおけるオリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画アウトライン

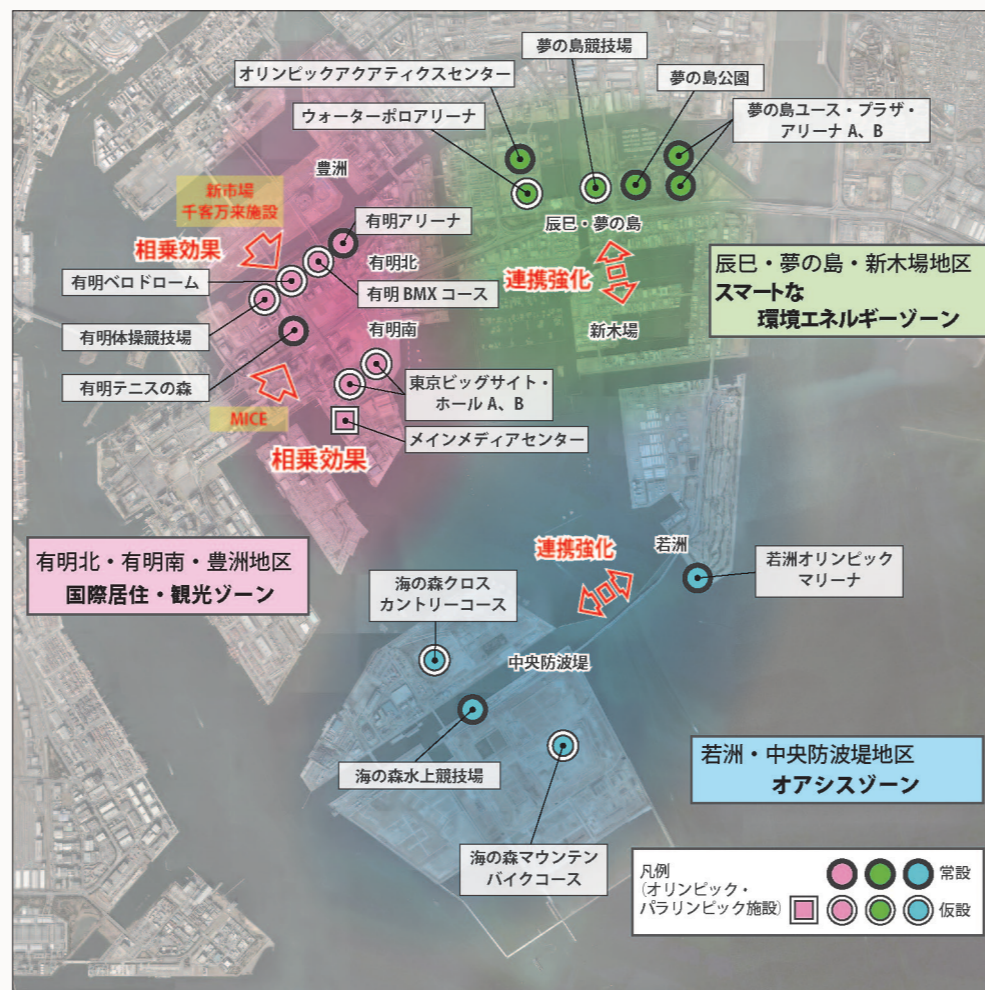
目的

本計画は、オリンピック・レガシー、パラリンピック・レガシーを活かしたまちづくりを実現させるための課題と解決策を示し、東京オリンピック・パラリンピック後の江東区の都市像を掲げることを目的とします。本アウトラインでは視点と方策を整理し、第一段階として施設設計に反映すべき方策を東京都へ提案します。

これまでの経緯と今後の予定

- 平成 25 年 9 月
 - ・2020 年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定
 - ・東京 2020 年オリンピック・パラリンピック開催準備推進本部を庁内に設置
- 平成 25 年 12 月
 - ・東京 2020 年オリンピック・パラリンピックまちづくり検討会議、同検討委員会を庁内に設置
- 平成 26 年 5 月
 - ・江東湾岸エリアにおけるオリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画アウトラインを策定
- 平成 26 年 6 月
 - ・第二回定例会所管委員会にて本アウトライン策定を報告
- 平成 26 年 7 月
 - ・基本設計に先立ち、方策を東京都に提案
- 平成 26 年度末
 - ・江東湾岸エリアにおけるオリンピック・パラリンピックまちづくり基本計画を策定（予定）
 - ・まちづくり全般について、東京都に提案（予定）

地区とゾーンの設定



ゾーン別の目標

(有明北・有明南・豊洲地区) 国際居住・観光ゾーン

誰もが居住、教育、医療を享受できる、東京で最も安全なまちを目指すとともに、水辺に隣接する環境を活かした居住施設や魅力あふれるエンターテインメント、情報発信の機能を提供します。

(辰巳・夢の島・新木場地区) スマートな環境エネルギーゾーン

新木場に代表される、本区の伝統でもある木材の利用を推進することで循環型社会の構築を図り、辰巳・夢の島ではスポーツの中心地として、新たな伝統を育てていきます。

(若洲・中央防波堤地区) オアシスゾーン

屋外スポーツやレジャーの拠点として、交通ネットワークの充実を図り、都心近傍で豊かな自然を感じられるパークエリアを目指します。

※江東湾岸エリア＝主に有明地区、豊洲地区、辰巳地区、夢の島地区、新木場地区、若洲地区、中央防波堤地区を総称する地域
※中央防波堤地区については、江東湾岸エリアに含めています。

都市像実現に向けた 10 の視点

土地利用

土地利用

複合市街地の魅力を楽しめるまち

各エリアのテーマに沿い、国際性と賑わいのある魅力的な複合市街地となるよう計画的な土地の利活用を推進します。

みどり

みどり

CIG を先導するまち

江東湾岸エリア内の積極的な緑化を行い、みどりの連続性を高め、緑の中の都市の実現を先導するまちとします。

水辺

水辺

水辺と日常生活がともにあるまち

区民や来訪者が水に触れる機会を創出し、水辺を日常的な憩いや賑わいの拠点として最大限活用したまちとします。

歴史・文化・観光

歴史文化観光

伝統と未来をつなぐスポーツ観光のまち

木材の積極的な活用による江東区の歴史・文化の世界への発信や、スポーツ施設や新たな観光資源の創出によりスポーツ観光のまちとします。

景観

景観

景観がまちのブランドとなるまち

豊かな水とみどりのダイナミックな自然資源を活かした景観形成を推進し、魅力にあふれブランドとなる美しいまちとします。

防災

防災

東京で一番安全・安心なまち

災害に強い当エリアにおいて、徹底した防災性の高いまちづくりを推進し、居住者や来訪者が安全・安心できるまちとします。

環境・エネルギー

環境・エネルギー

最先端のスマートシティを目指すまち

再生可能エネルギーなどの積極的な活用を推進し、スマートシティ実現の取組みの最先端となるまちとします。

スポーツレクリエーション

スポーツ・レクリエーション

世界を魅了するスポーツのまち

日常生活の中にスポーツ環境が活かされ、スポーツを通じたコミュニティが形成されるまちとします。

交通

交通

多様な交通手段が確立されたまち

都心や南北方面などの交通網の強化と、人流と物流の分離により、快適かつ移動自体が楽しめるまちとします。

ユニバーサルデザイン (UD)

UD

先進的なユニバーサルデザインのまち

ユニバーサルデザイン (UD) を特に重視したまちづくりを推進し、その取り組みを区全体へ広めていく、先進的なUDのまちとします。

1. 都市型ロープウェイの導入

オリンピック・パラリンピック開催に向けた魅力的な観光資源として都市型ロープウェイを導入する。交通手段として比較的高い輸送力を有し、道路交通に負荷をかけずに短期間で整備が可能のため、都心方向へのアクセス強化にも貢献が期待できる。



整備する地区：
○有明北・有明南・豊洲地区

2. 競技場の木構造採用

江東区・木場の木材業の伝統や日本の大規模木造建築の技術を世界へ発信し、その育成を図るため、恒久の競技場を木造を主体とする構造で整備する。競技場自体が来訪者の印象に残り、観光資源となることに加え、特色のある景観形成にも貢献する施設とする。



整備する地区：
○有明北地区
○辰巳・夢の島地区
○若洲・中央防波堤地区

3. 水上バスステーション・水陸両用バス用スロープの整備

オリンピック・パラリンピック開催に向けた来訪者の増加に合わせ、水辺の魅力を観光に活かすため、水上バスステーションや水陸両用バスのためのスロープの整備が必要である。これにより、舟運利用や水陸両用バスの路線の誘致を推進する。



整備する地区：
○有明北・豊洲地区
○辰巳・夢の島・新木場地区
○若洲・中央防波堤地区

4. 競技場の屋上・壁面緑化推進、清掃工場の排熱利用

省エネや景観形成のために、競技場の屋上や壁面への緑化を推進する。更に、エネルギーの有効利活用のために清掃工場の排熱を利用し、競技場にアイススケート場の機能を付加する。



整備する地区：
○有明北・有明南地区
○辰巳・夢の島地区

5. 新木場駅・夢の島間歩行者デッキの整備、コミュニティサイクルの推進

辰巳・夢の島地区の競技場へ向かう観客の安全・円滑な移動確保のため、新木場駅構内の貫通路と高速道路および国道上空を横断して夢の島地区までを結ぶ歩行者デッキを整備する。新たな歩行者ネットワークの創出により新木場地区と辰巳・夢の島地区の連携を強化する。

更に、コミュニティサイクル導入を積極的に推進し、エリア内の回遊性を向上させる。



整備する地区：
○有明北・有明南・豊洲地区
○辰巳・夢の島・新木場地区
○若洲・中央防波堤地区

6. 有明地区ユニバーサルデッキの整備

物流幹線道路が縦横に走る有明地区において、人の移動の安全を守り、かつ円滑な物流を図るために、人と車の移動空間を分離したユニバーサルデッキを整備する。オリンピック・パラリンピック後の跡地利用にも活かすため、重層的なデッキ整備を行う。



整備する地区：
○有明北・有明南地区

7. 競技場の賑わい拠点化

まちの活性化とスポーツによるコミュニティ形成のため、競技場と周辺の駅・商業施設などとの連携を強化する。また、日常的なスポーツ活動が可能な施設や賑わいを生む機能を導入する。



整備する地区：
○有明北地区
○辰巳・夢の島地区
○若洲・中央防波堤地区

8. 競技場の防災拠点化

広域的な防災機能の強化のため、競技場に防災拠点として活用可能な機能を導入する（防災備蓄倉庫、独立型電源、船による物資搬入を考慮した施設動線など）。また、既存の防災拠点である「有明の丘」とも連携させる。



整備する地区：
○有明北・有明南地区
○辰巳・夢の島地区
○若洲・中央防波堤地区